NIE

年　組　名前

道新でワークシート

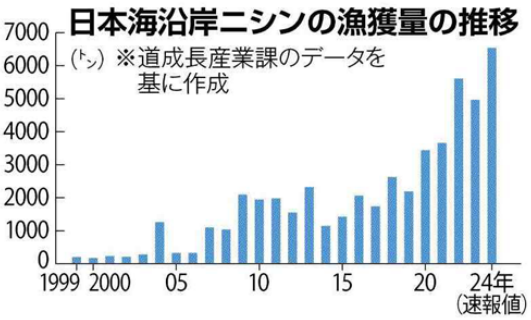
日本海ニシン豊漁

今年6539トン 99年以降最多

専門家「回復続く」

道が稚魚放流事業を行っている日本海沿岸での今年のニシン漁がほぼ終了し、4月末時点の漁獲量（速報値）は前年実績比31・6％増の6539トンと、現在の方法で集計を始めた1999年以降、過去最多となった。専門家は「来年も資源の回復傾向が続く」とする。

日本海沿岸の檜山管内江差町の沖合で漁獲されたニシン＝2月27日（宮﨑将吾撮影）



道は96年に放流を開始。稚内市から檜山管内上ノ国町にかけての沿岸で、ここ数年は約340万匹を放流している。道は日本海沿岸の1～5月末の漁期に刺し網や定置網にかかった量を調べている。速報値は漁の状況をみつつ、全道集計に先んじて発表している。

エリア別では、石狩が44・5％増の3012トンで最多だった。石狩湾漁協（石狩市）の吉村貴文総務課長は「例年は2月がピークだが、今年は3月まで大型のニシンが入った」と話す。

後志北部は22・1％増の1316トン、留萌は14・2％減の1373トンだった。

宗谷は50倍の5トン。利尻漁協（宗谷管内利尻富士町）は今年から本格的な漁を始め、昨年の3倍近い10隻が操業した。同漁協販売部の坂本兼一課長は「3～4月は魚が捕れない時期。ニシンの増加は新たな収入につながる」と喜ぶ。

資源回復について、道総研中央水試（後志管内余市町）は稚魚放流に加え、1～3月に産卵する「石狩湾系群」のニシンで近年稚魚の生き残りが多く、明治期に主流だったロシア海域を主な分布域とする「北海道・サハリン系群」も4～5月に来遊していると説明。資源管理部の城幹昌主査は「今年は4歳魚の割合が多かった。来年も産卵に来る可能性が高い」と見込む。

国内のニシン漁獲量は、明治期に100万トンに迫ったが、道内では戦後に漁獲が激減し、「幻の魚」とも言われた。

（田中華蓮）

2024年 5月10日（金） 朝刊 全道版 1ページ（記事は再編集しています）

① 花田さんはこの記事を読んで、日本海沿岸でのニシンの漁獲量は、今年は多いと思いました。
記事に書かれたどんな事実からそう思ったのでしょうか。

② 青山君はこの記事を読んで、日本海沿岸でのニシンの漁獲量は、今年も少ないと思いました。
記事に書かれたどんな事実からそう思ったのでしょうか。